

# 学級活動指導案

日時 2006年12月5日(火)5校時

児童 6年3組 27名

授業者 大宮 秀夫

## 1. 題材名「新聞記事から考えよう」

## 2. 題材について

最近の新聞などで「いじめ」「自殺」などに関する痛ましい事件の記事を多く目にする。特に文部科学大臣に宛てた「自殺予告の手紙」に関する報道がなされた後は、「いじめ自殺問題」は益々深刻な課題となっている。インターネットで以下のような記事を見つけた。

派手な自殺報道をすると、そのあと自殺が増えます。いじめ自殺!遺書を残して自殺。いじめっ子は、怒られ、補導され、苦しみ、そして、いじめられっ子はみんなから愛され、死を嘆き悲しまれ、めでたし、めでたし。こんな報道が、次のいじめ自殺を誘発します。いじめ自殺が、問題解決のために成功だったと感じさせるような報道は、危険です。もちろん、死者にむち打つような報道はできませんが、必要以上にセンセーショナルな報道は控え、自殺は決して問題解決にはならないと伝えなくてはなりません。また、家庭や学校も、注目を集めるような自殺報道がなされたときには、注意が必要です。不安定な精神状態の子がいれば、特に気をつけなくてはなりません。

「いじめ自殺をふせぐために」より引用 (<http://www.n-seiryu.ac.jp/~usui/news/ijimejisatu.html>)

本時の授業は、上記のことを念頭におき、新聞記事をもとに「命の尊さ」や「いじめ」について考えていきたい。

6年3組は明るく、比較的仲が良く、他人に対して思いやりのある行動をとれる子が多い。また、行事のときには協力して丸となって目標に向かうすばらしい集団である。しかし、一方で友達関係に悩み、中学校への不安を少なからず抱えている児童もいると考える。どんなクラスでもいじめは起こりえる。

そこで、本授業を通して、「いじめは許さない」学級づくりをさらに強いものにしていきたいと考え、本題材を設定した。

全国で交通事故による死亡者は1万人。一方で自殺者は3万人にもおよぶ。尊い命を自殺によって失うことのないように・・・。

## 3. 新聞活用のねらい

朝の会で「涙が出るほどいい話」(河出文庫)を毎朝一話ずつ読んでいる。その後、毎日ではないが時折気になる新聞記事をコピーして読んだりもする。最近では「滝川市の当時小6女児のいじめ自殺」記事を読んだりもした。新聞記事は難しい言葉もあるが、6年生にとって内容をおおよそ理解することは難しいことではない。時には担任が解説することもある。内容にもよるが、多くの児童は興味を持って読んでいる。

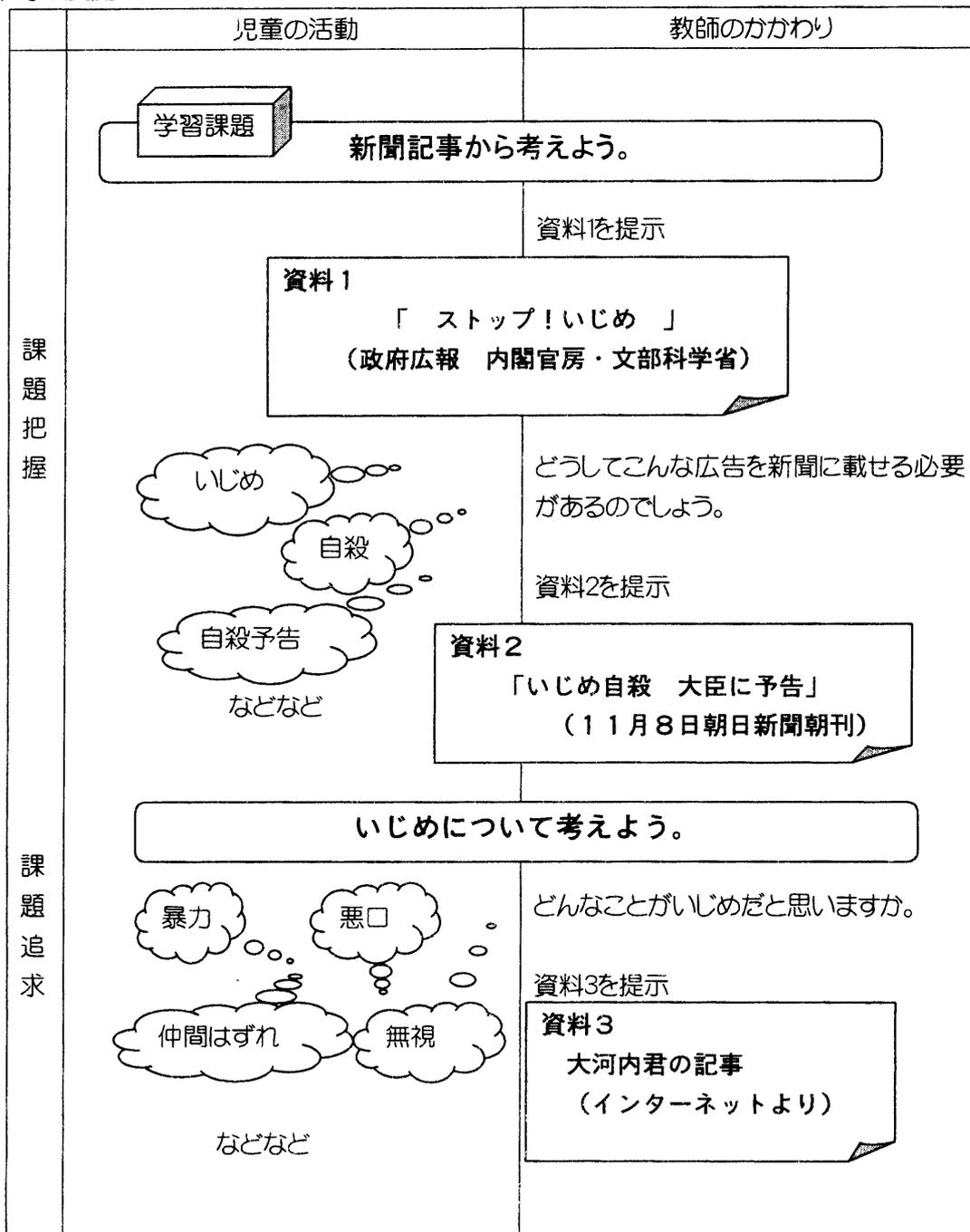
そこで本時では、朝の会の短時間での読み合わせではなく、1校時を丸ごと使って新聞記事からじっくり考える学習に取り組む。いつものように興味を持って取り組んでくれると予想するが、

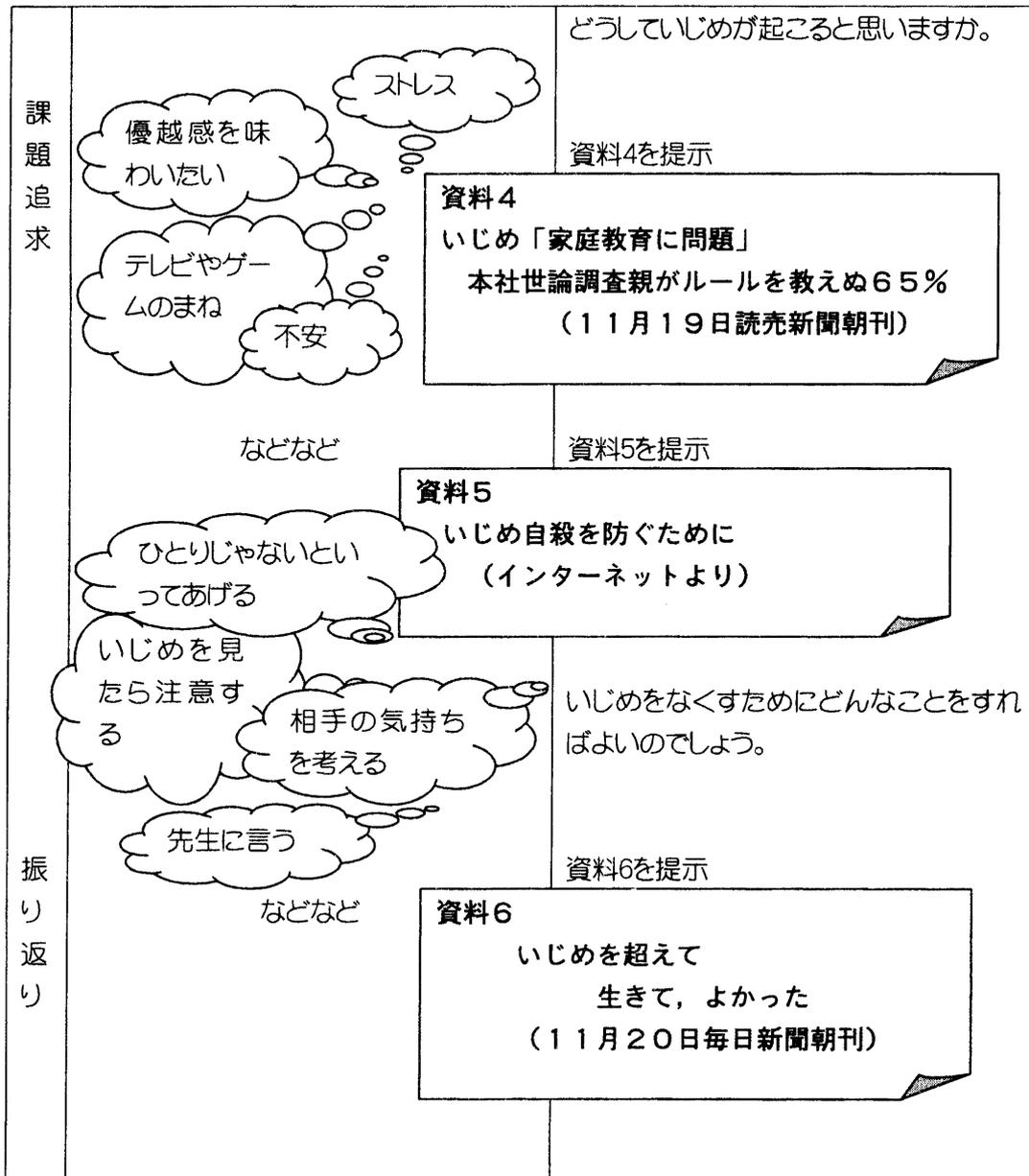
本時では「いじめ問題」を題材として扱うので、重い空気になるかもしれない。児童の気持ちに配慮しながら授業にのぞみたい。

4. 題材(本時)の目標

- 新聞記事をもとに「命の尊さ」や「いじめ」について考え、クラスみんなで「いじめは許さない」という意識(いじめは100%いじめる側が悪い。)を持つ。
- 他人(自分)の気持ちを考え、悩みを抱えている友達(自分)に気付こうとし、乗り越える手立てを考えるきっかけを持つ。

5. 本時の展開





6. 本時の評価

○いじめについて真剣に考え、いじめをなくそうという意識を持つことができたか。

○命の尊さに気づき、自他の生命を尊重する姿勢を養うことができたか。

メモ

---



---



---



---



